日衛連

日本主導で標準化推進へ、第78回通常総会を開催

一般社団法人日本衛生材料工業連合会は6月15日、都内で第78回通常総会を開催した後、記者会見を開いて2018年度事業計画と重点活動について報告した。2018年度は、コンプライアンス遵守をベースとし、「人と社会にやさしい衛生用品の進化の推進」と「国際標準化の推進と国際連携の強化」、消費者・利用者に安全・安心の信頼に向けた「自主基準・公的基準の充実など薬事行政の確実な執行」を引き続き重点活動に位置づけ取り組んでいく。

高原会長

高原豪久会長は、会見の席でまず、6月6～8日に東京ビッグサイトで開催された「ANEX2018（アジア不織布産業総合展示会・会議）」に触れ、「12年ぶりに日本での開催となったが、3日間で3万人以上の来場者があるほど盛況だった。当連合会の展示ブースにも中国や韓国など海外からも多くの来場者があり、不織布産業への熱量を感じた」と振り返った。

そうしたビジネスの国際化が進む中で、日衛連として積極的に推進する標準化について高原会長は、「中国をはじめ世界的に標準化をめぐる活動が活発化している。国際化が進む中で、標準化への率先した提案活動や、自主基準の整備、遵守活動はますます重要であり、他国との連携も必要になる」と改めて強調した。

その標準化推進活動では、2016年から紙おむつの品質と安全性の維持・向上を目的に、吸水性樹脂工業会とともに、吸水性樹脂（SAP）の日本工業規格化を進め、18年6月20日に「JIS S－0251」として発行された。2018年度はそのJISをもとにした「尿吸収製品用吸水性樹脂の安全・品質に関する規格と試験方法」と、日衛連の自主基準をもとにした「抗菌加工を施した吸水性樹脂の抗菌効果と抗菌性評価試験方法」の2つのISOを日本から提案する国際標準化事業を開始する。

一方、少子高齢化が進む国内については、「連合会が関連する市場は堅調であり、景況感もそう悪くない。健康寿命の延伸は、企業にとってビジネスチャンスが時間的に長くなると捉えることもでき、会員各社の積極的なチャレンジによる市場活性化を期待したい。また、医療材料・医療機器の分野では、改革が進む介護や医療制度への対応、UDIなど様々な連携が重要なテーマとなってきているのでしっかりと対応していく」と抱負を語った。

会見後に開かれた記念講演会には、カーリング選手で平昌オリンピック銅メダリストの本橋麻里氏が登壇し、「本橋麻里という生き方～カーリング人生」をテーマに60分間講演した。

その後の懇親会では、横井昭副会長（マスク工業会会長）が乾杯の挨拶に登壇し、「マスク工業会の加盟企業は、パンデミックで一時的に急増した2009年以来、100社を超えた。マスクはインバウンド需要も多少取り込めており、追い風が吹いている。19年のラグビーワールドカップ、20年の東京五輪など世界的にPRできるチャンスも続くので、戦略立てて業界をさらに盛り上げていきたい」と語った。

私のH＆B日記

行列にみる現実感への飢え

デジタル時代を迎え、些細なことから大事なことまで然るべき回答・応答が瞬時に得られるようになったことで、未充足感や不安定さ、あるいは不均衡さを人は知覚的なリアリティの本質として捉えるようになっているのではないか。そんなことを、先日訪れた栃木・宇都宮の餃子街の行列を横目に見ながら思った次第である。

私の人生において餃子の存在はこれからも重要でないと思われるが、折角市内にいるならばと最有力店を訪れることになった。調べると早々に2つの本店に絞り込まれ、さらに十数メートルの距離に並ぶという情報に車内は驚喜で包まれた。激戦区としながら人気が極集中する然るべきポイントを文明の利器であるカーナビゲーションに打ち込んだ。

昼時をとうに過ぎての到着だったが、2店ともまだ長蛇の列が形成されていた。周辺を見遣ると、先行上映中という地元を舞台にした餃子映画のポスターが貼られ、キレイな女性が目を閉じて口を突き出している。行列に唖然としていると小馬鹿にされているような気持ちになり、宣伝ならば笑顔でこっちを見よとポスターに向かっていじゃないという風潮が強まるのだなと感じた。イン&アウトバウンドの需要拡大で需給バランスのとりにくい化粧品業界もそうならないことを祈るばかりだが、この人気2店は、比べできるという高効率な施設へ移動した。一度に大量注文したため、店と餃子が不明瞭なまま胃袋に収まり、帰りの車内では、いつしか目を閉じて腹を突き出していた。（菅）

第11回定時社員総会を開催

日本エステティック協会

一般社団法人日本エステティック協会は6月4日、第11回定時社員総会と懇親会を開催した。総会では、第1～7号議案について審議し、いずれも承認された。

懇親会で挨拶に立った久米健一理事長は、仕事をこなすために必要な「知識」「技術・技能」「成果につながる職務行動例（職務遂行能力）」を、業種別、職種・職務別に整理した公的な職業能力の評価基準「職業能力評価基準」において、新たにエステティック業が定義されたことについて触れ、「エステティシャンという職業を盛り上げる千載一遇のチャンスだ。協会として、評価基準の普及と基準を活用した改革を進めていきたい」と述べた。

久米理事長

また、挨拶に立った山東昭子参議院議員は、海外ではエステティック業がライセンスを設けている国もある重要な仕事としたうえで、「人々の心に安らぎや働く女性に活力を与えるエステティックは、とても素晴らしい仕事だ。これからの美と健康の発展のためには、エステティック業界に関わる皆さんや日本エステティック協会の活躍が重要になる」と鼓舞した。

山東議員

障害者の教育や雇用について取り組んでいる今井絵理子参議院議員は、「今、全国のろう学校で理容科ができてきている。もしかしたら、将来的にはエステティック業界に、耳が聞こえない障害を持った方々が来るかもしれない。そのときは温かく迎え入れて欲しい」と述べた。

今井議員

ニーズに応じた評価試験を実施

岩瀬コスファ

岩瀬コスファでは、化粧品原料の輸出入、販売に加えて、化粧品・医薬品・医薬部外品・食品などの安全性や有用性試験の受託サービスを提供している。

近年、化粧品や食品の分野では製品の有効性・安全性を担保するために質の高いエビデンスが求められるようになり、社内データよりも第三者データが重要視されている。さらに、第三者機関への委託試験を行う場合、試験内容の透明性と試験結果の客観性が求められるようになっている。

そこで同社は、国内の研究機関のみならず、海外の皮膚評価機関とも提携して多岐にわたる評価を行うことで、様々な顧客のニーズに応じた的確な評価方法を提案している。

中でも、受託件数が多いヒトによる安全性評価方法にはいくつかの種類があり、ヒトの皮膚に対し刺激性の有無を確認する「パッチテスト」や、皮膚に対するアレルギー反応を確認する「アレルギーテスト」、敏感肌の方を対象にかゆみやヒリヒリ感を評価する「スティンギングテスト」、ニキビが生じにくい製品であるかをチェックする「ノンコメドジェニックテスト」などは需要が増えている。

その他、有用性試験も多岐にわたって受託を進めている。「抗シワ評価」は、日本香粧品学会の「新規効能取得のための抗シワ製品評価ガイドライン」に基づく試験で、有効性ありと評価されると、乾燥による小じわを目立たなくする効能が謳える。また、日本化粧品工業連合会とISOそれぞれの基準に則した「SPF／PA評価試験」などがある。

今後も、岩瀬コスファの強みである提案営業力を活かし、積極的なコミュニケーションから顧客ニーズを的確につかみつつ、それに応えられる試験施設と協力することで、より充実した顧客サポートの提供・顧客満足度の向上につなげていきたい考えだ。